

「心電図判断基準(学校心臓検診二次検診呼び出し基準)」
平成20年3月改訂版

正 誤 表

場所	正	誤
1)1頁 I-2. の二つ目の●の 行	・・・V1～V4・・・V1～V6・・・	・・・V1～V4・・・V1～V6・・・
2)3頁 V-1) ●	・・・V3～V6・・・V4～V6・・・	・・・V3～V6・・・V4～V6・・・
3)5頁 7. 最下 行	小学生では-30度以上の、中高 生では-45度以上の左軸	小学生ではLAD \geq -30、中高生では LAD \geq -45
4)7頁 IX-1.	・・・V6誘導で、QRS<1.0mV・・・	・・・V6誘導で、QRS<0.1mV・・・
5)7頁 図	別図と差し替え	図11-1及び図11-2
6)7頁4. QT延 長	HR \leq 75でQTc・・・ HR>75なら、・・・	HR<75でQTc・・・ HR \leq 75なら、・・・
7)7頁 最下段 【解説】4、6行	HR>75・・・	脈拍数 \geq 75・・・

IX. その他

上記の各項に整理されない心電図所見を纏めた。

1. 低電位差(LowVoltage)

I誘導及びaVF誘導で、 $QRS < 0.5mV$ or V1誘導及びV6誘導で、 $QRS < 1.0mV$ (裁量範囲)

2. 心房負荷(裁量範囲)

- aVF or V1で $P \geq 0.30mV$ (図10)
- I誘導の $P \geq 0.12$ 秒、但し小学生では、I誘導の $P \geq 0.10$ 秒(図11-1)
- P波が+/-型で陰性部が深いもの(図11-2)

図10. V1の高いP(右房負荷)

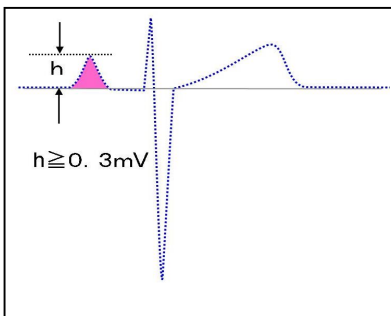


図11-1. Iの幅広いP(左房負荷)

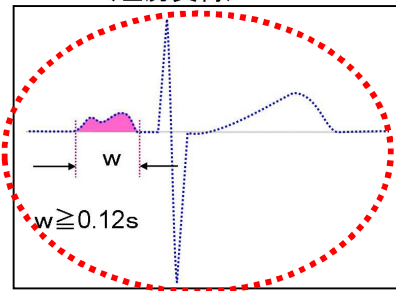
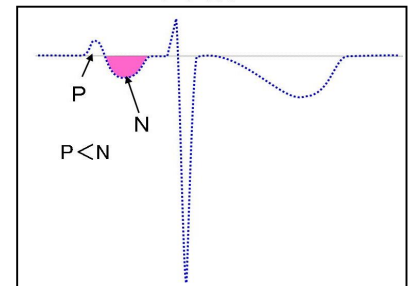


図11-2. V1の深い陰性P(左房負荷)



3. 右胸心(Dextrocardia)

明らかな電極間違いの場合を除き、心内奇形の合併を否定する目的で、精査へまわす。

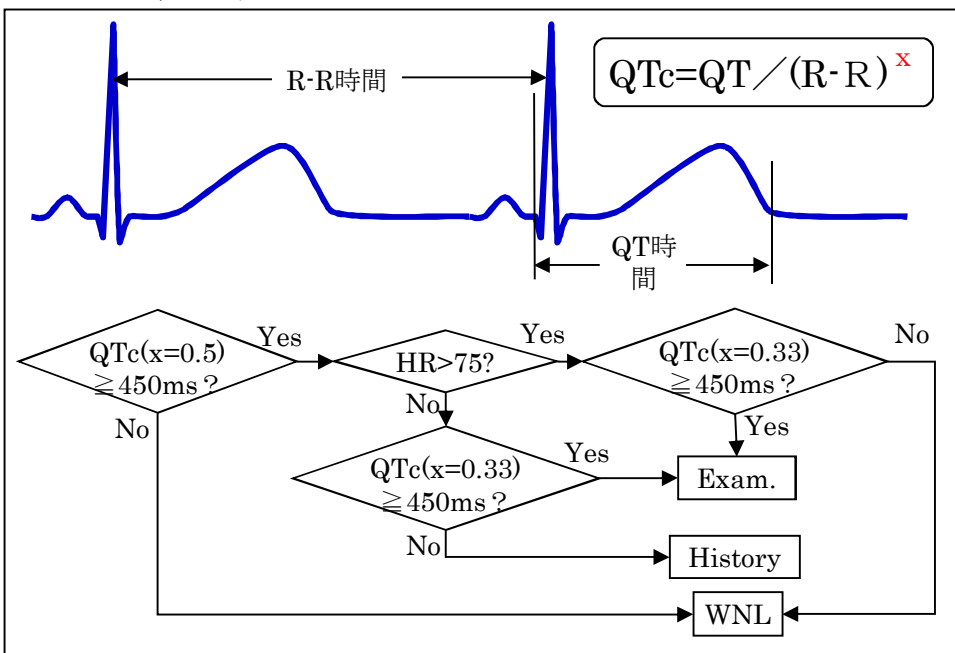
4. QT延長(Prolonged QT)(図12)

$HR \leq 75$ で QTc (平方根、 $x=0.5$) ≥ 0.45 秒で精査(Bazett補正)。

$HR > 75$ なら、 QTc (立方根、 $x=0.33$) ≥ 0.45 で精査。

これらの間に落ちる例は、判読医の裁量範囲。

図12. QT延長の判定フロー図



【解説】QTcは、標準的に行われている、R-R時間の平方根($x=0.5$)による補正では、脈拍数 >75 で、判断を除外していたが、最近の研究で、 $HR > 75$ でも、R-R時間の立方根($x=0.33$)で補正すれば、的確に判定できるとされている。

図中、「Exam.」は、医学的精査が必要、「History」は、病歴や家族歴を確認したうえで対応を選択することを意味する。